

総合心療センター メンタルリハビリテーション部

部長 山内 学

当部門について

今年の総合心療センターのメンタルリハビリテーション部門は、スタッフの補充はなく看護師の交代にて運営が行われています。

各部門では、コロナ感染への対応は継続して行われています。外来部門は少し対応を緩和して行えるグループ運営はできはじめています。感染拡大にならずに安全安心の提供を行えています。

デイケア部門においては、スタッフの定着が進まないこともありながら他のスタッフにて教育やサポートしての運営ができています。スタッフの異動は、対象にとっては変化であり動揺や不安につながることを意識して行うことができるスタッフの力量によりカバーされています。個別面談や外部との調整など結果を可視化する努力により対象者を次のステップにつなぐことができています。マンパワーの不足や対象者の層や疾患などにより増員につながらないことも課題としてはあります。

作業療法部門では、入院及び外来患者へのプログラム運営を行っています。環境面制限や自由度の低さは今の時期は仕方ないことかと葛藤してる様子とうかがえます。運営したいプログラムをできないことでの焦燥感や次のステップへ送り出すことのできないパワー不足も課題です。入院患者の参加者減もあり、プログラム内容の見直しについても取り組んできています。間接業務の過多に整理は必要ですが、仕分けに至らずです。

心理部門は、デイケア部門でのスタッフ役割は十分行えています。心理室での面接（カウンセリング）や心理検査は診療のサポートになっています。しかし、診療点数に反映されない現状があります。依頼件数も増えてきていることもあり早期対応が期待されています。近森会としてのストレスチェックやリエゾンチームでの役割や心臓リハでの対象者家族サポートも定着してきています。総合心療センター内での、教育プログラムの講習など実施しておりレベルアップにつながっています。

今後も、精神科急性期医療の快復度アップや在宅サポートや就労についても積極的におこなっていくためスキルアップに努めていきます。